



テクニカル・メッセージ

ハブキャップ異常時の点検・整備について

ハブキャップからの浸水やグリス漏れによりハブベアリングに潤滑不良が発生、ハブベアリングの焼き付きから火災や脱輪に至る事例が確認されております。

ハブキャップに異常が認められた場合には、ハブベアリングの点検を行うとともに、新品のハブキャップへ交換いただけますようお願い致します。

■ 対象車型

トラック・バス全車

■ ハブキャップの異常によるベアリング破損事例

＜ハブキャップ内面＞



錆が認められる = 浸水

浸水
⇒グリスの
潤滑性能低下

＜ハブベアリング内部＞



潤滑不良により破損

■ 修理、点検、整備時の注意事項

◆ハブキャップ取り外し前

下記が認められた場合、ハブキャップを取り外し内部を確認してください。

- ・ハブキャップに深い傷がついている。
- ・ハブキャップが著しく錆びている。
- ・ハブキャップが損傷／変形している。
- ・ハブキャップからグリスが漏れている。

＜ボルト取り付けタイプ＞ ハブキャップの取り付けボルトが緩んでいる。

＜はめ込みタイプ＞ ハブキャップが斜めになっている。



損傷・変形

◆ハブキャップ取り外し後

下記が認められた場合、ハブベアリングが潤滑不良によりダメージを受けている可能性があります。

ハブベアリングの点検・整備を行うとともに、ハブキャップを新品に交換してください。

- ・ハブベアリング部のグリスが枯渇している。

※以下はハブキャップのグリスを洗浄したうえで確認を行ってください。

- ・ハブキャップに孔があいている。
- ・ハブキャップのシール面、内部に錆が認められる。

＜ボルト取り付けタイプ＞ ハブキャップの取り付け面に変形、傷が認められる。

＜はめ込みタイプ＞ 嵌め合い部に傷がついている。



孔あき

■ ハブキャップの取り付け時の注意事項

ハブキャップの取り付け時には以下項目に注意願います。

【ボルト留めタイプ】

- ・ハブキャップに付着している古いガスケットは全て除去し、シール面に異物・傷がないことを確認したうえで新しい板ガスケットの組み付けを行ってください。※1
- ・ハブキャップの取り付けボルトは適正なトルクで締め付けてください。
締め付けトルク：43 ± 5.5N・m {438 ± 56kgf・cm}

【打ち込みタイプ】

- ・ハブキャップに付着している液状ガスケットは全て除去し、シール面に異物・傷がないことを確認したうえで液状ガスケットを塗布し打ち込みを行ってください。
- ・ハブキャップを真っ直ぐ打ち込むようにしてください。※2

※1：ガスケットは弊社の指定している物をご使用いただけますようお願い致します。

板ガスケット指定の部位には液状ガスケット（シール剤）のみを塗布して使用しないでください。

※2：以下品番で打ち込み用の専用工具を設定しております。

品番：09513-36040（小型）、S0960-71010（中型）



打ち込みタイプ
シール面

■ 車両使用時について

ご使用中に以下が認められた際には、速やかに点検の実施、もしくは点検の依頼をしてください。

- ・ハブキャップがない。
- ・ハブキャップに深い傷がついている。
- ・ハブキャップが著しく錆びている。
- ・ハブキャップが変形している。
- ・ハブキャップからグリスが漏れている。

<ボルト取り付けタイプ> ハブキャップの取り付けボルトがない。

<はめ込みタイプ> ハブキャップが斜めになっている。



著しく錆びている